

# 極楽寺だより

2018(平成30)年6月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 夏法座のご案内

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、

静かにわが身をふりかえる「安居会」

「夏安居」という行事が、お釈迦さま

の頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流そうという、ゆ

かしい夏の法座です。お誘いあわせ、お参り下さい。

六月十一日(月)

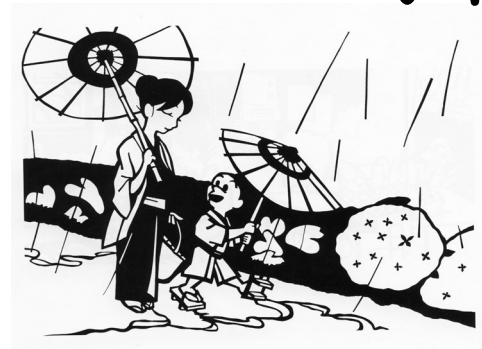
昼一時半 夜七時半

六月十二日(火)

昼一時半

講師 福岡市西教寺住職

森 哲人 師



ご予約下さい

第55回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

期日：9月 13～14日 会場：上ゲ 徳照寺

講師：天岸浄圓 師 ※お寺で送迎致します。遠慮なくお申し出下さい。

# オシエノ カケラ

極楽寺だより  
イベント



## 「お参り、有難うございます！」

前回の『極楽寺だより』で、「夜の法座にお参り

ください」とお願いしたところ、春の永代経法要・

夜の座に、何人もの方が参拝してくださいました。

本当に有難うございます。中には、「住職さんが言われていたから、来ました！」という方もあったそうで、ウルウルしてしまいました。「私たちは、夜しかお参りできないから…」と言われる方もありましたので、改めて夜の座を続けていくことの大切さを噛みしめているところです。

もう一つ、嬉しいことがありました。

ねんばい じょうれん  
年配の常連の皆さんが、とても喜ばれたことです。つねじごろ  
参りできなくなったら、どうなるだろうか」と心配してくださっていましたから。このことをご講師の先生にお話しすると、「素晴らしいですね。私のお寺」と思っておられるんですね」

住職からの  
お願いです

夜の法座に、お参りください

このところ、法座へのお参りが少なくなり、また高齢化がすすんでいます。特に夜の法座は、めっきり少なくなりました。このままだと、いづれ夜の法座を始めることができなくなりそうです。

忙しい時代です。しかし、「忙」とは、「心を亡くす」と書きまます。忙しきの中で、大切な心を忘れ、亡くしてはいませんか。ならば、なおのこと法座のご縁が大切になるはずですよ。

法座は、お参りに来られる方がなくては成り立ちません。長い歴史を通して伝えられた尊いご縁を支え、伝えるには、「あなた」のお力が必要です。どうぞ話し合ひ、お参りください。よろしくお願ひします。

極楽寺だより4月号 住職のお願い

と驚かれました。長い歴史を通して仏法が伝わってきたのは、このように自分のこととして受け止め、支えられた方々があつてのことだということを、ヒシヒシと感じています。

どんなことでも、やめたり壊すのは簡単です。しかし、受け継ぎ、支え、伝えていくことはとても難しいことです。そして一旦壊れてしまったら、元に戻すのはより一層困難になります。

東日本大震災の後、釈徹宗先生がアメリカのCNNテレビから「なぜ、あのような状態なのに、被災地では奪い合いも略奪も起こらないのか？」と取材を受けられました。アメリカでは、2005年に起きたハリケーン・カトリーナ災害後の治安悪化は、かなり酷かったです。

釈先生は、「大部分の人がこうした危機的状況でも、秩序だった態度でいることが、結局は早く良くなることを知っているからではないか」と説明されました。なぜなら、世界各国と比較すると、ここ五十〜六十年間の日本社会は、フェアネス（公正性）



が保たれていたからなのだ。

世界を見渡せば、社会が公正だとは思えない国のほうが圧倒的に多いのです。たとえば、インドはかなり不公平な社会です。順番を守って並んでいけば、必ず自分の番がやってくると思っ  
ていません。となれば、当然「順番を守っていけばみんなが  
出られるのに、小さな出口に人が殺到するから結局誰も出られ  
ない」といった事態も、しばしば起こります。

『覚悟の決め方』 釈徹宗 他

フェアネス（公正性）が保たれる社会は、みんながそれを大切  
に守り、支えなくては成り立ちません。それが実現していること  
は、とんでもなく凄いことなのです。誰かが軽い気持ちで裏切  
れば、疑心暗鬼が生まれ、簡単に崩れてしまう脆いものですか  
ら。これが一旦壊れると、元に戻すのは容易  
なことではありません。

仏法を伝える場が、長い歴史を通して続け  
られていることも同様です。私が支えなくて  
はならないという自覚を持った方々の、営み  
があつてこそです。しかしそれも、



崩れるのは一瞬です。事実、多くの寺院で、夜の座が勤められな  
くなっています。簡単に崩れ去るほど脆いものだからこそ、大切  
にしなくてはならない。そして同時に、支えて下さる方々へ敬意  
を払わねばならない。そんな思いを新たにしているとこ  
ろです。

ところで、先日こんなお話を読みました。

旅人が、建築現場で作業している

人に「何をしているのか」と質問し  
たのです。一人目の作業員は「レン  
ガを積んでいる」と答えました。

二人目の作業員は「壁を造っている」

と答え、そして三人目の作業員は

「大聖堂を造っている。神を讃える

ためにね」と答えたというお話です。

『もの見方が変わる 座右の寓話』 戸田智弘

三人は、同じ作業をしています。しかし、一人目の作業員は、  
ただレンガを積むという目の前の行為しか見えていません



でした。二人目の作業員は、壁を造るといふ、レンガを積む目的までは理解していたようです。そして、三人目の作業員は、壁を造るといふことは、大聖堂を造ることであり、それは神を讃えるためだと答えました。彼の目には大聖堂だけではなく、神様の存在やこれまでの先人の歴史、そして同様に神を讃える未来の人々の姿も見えていたのでしょう。そこには「私は神様のお仕事の手伝いをしている」という誇りもあつたはずで。

同じ作業をしても、同じ景色を見ているも、それぞれのものの見方によって、意味は大きく変わります。目先の、稼ぐための行為としか受け止められない人もいれば、プロとして仕事と向き合う人もいます。しかし自らの存在を、長い歴史と大きな世界の中に見出し出している人は、深く豊かな生き方を、自らの仕事に感じることができるといふでしょう。

つまり、法座にお参りし、ただ座り、話を聞き、時には居眠りをしたりもする。そんな営みこそが、実は仏様のお仕事のお手伝いなのです。お参りに来られる方がなかったら、仏法を受け継ぎ、伝える場が成り立たないのですから。同時にその営みは、

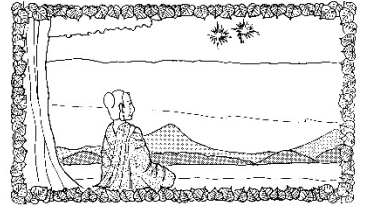
亡き方や、歳をとられお参りできなくなられた方々の営みや人生を讃え、また次の世代の人々を尊ぶことでもあるのです。

そう受け止めると、人生の意味合いも大きく変わってくるのではないのでしょうか。人生を、ただ自分のためだけのものと見るのか。それとも「ささやかではあつても、仏様のお仕事のお手伝いをさせていただいている」と、長い歴史と大きな世界の中に自らの人生を見出すのか。どちらを選ぶかで、見える景色も意味合いも、まったく違うものになってきます。

これからも夜の座を、できる限り続けていきたいと思ひます。仏様のお仕事のお手伝いをされる方、募集中です。どうぞ、お参りください。よろしくお願ひいたします。 ■

募集中!





## 極楽寺掲示伝道 けいじでんどう

感謝の生活は  
当たり前前あたりまえのことが  
有り難く思える  
ことから始まる



## 6月の言葉

以前、高校の同窓会どうそうかいに出席した時のことです。三十年ぶりに会った友人が、トイレやお風呂やシンクを開発・販売する一流企業つとに勤めていることを聞きました。

そこで彼に、こんな質問をしたのです。「近頃の最新式トイレは、前に立つと自動でフタが開き、立ち上がると自動で流れるようになっていられるけれども、あの機能は要るのか」と。すると彼は、「オレも要らないと思うんだけど、フタが汚いから触りたくないというニーズがある。だから、仕方がないんだ」と言うのです。そして自動で流れる機能が開発された理由も、便利だからということだけではないようです。トイレでは、稀に前の人の流し残しに出会うことがあります。それが不快で耐えられない」という声が多くあったからなのだとか。

しかし、自分も汚いものを抱えていますし、出してもいる

わけです。何より無菌状態では、動植物であれ、人間であれ、弱々しくしか成長できません。納得がいけない顔の私に、彼は言いました。「自動でフタが開くトイレで育った子どもはな、小学生になって学校のトイレに行ったら、フタが開くのをジーツと待っているらしいぞ…」。

それを聞いて、私は呆然としました。トイレのフタが自動で開く機能は、一日、二日で作ることはできません。長年の研究の積み重ねで、ようやく出来上がったものです。そこには、多くの人たちの苦悩と、汗と、涙と、そして残業時間が込められています。それだけの営みと歴史があつて、ようやくトイレのフタは自動で開くのです。それを、「当たり前」としか感じられない子どもが育つ社会になっているとしたら、恐ろしいことだと思いませんか。

「当たり前」だと思っている時には、どんなに素晴らしいものをいただいても、どんなに整えられた環境を用意されても、喜びも感動ありません。それが「当たり前」なのですから。それでは感謝の心も、満たされた思いも起ることはないでしょう。

この話を、ある後輩こうはいに話した時のこと。彼の家も、自動でフタが開き、自動で流れる最新式のトイレなのだそうですが、彼も「あのトイレは、本当に良くありませんね」と言うのです。なぜなら、流すことを自動機能たよに頼たよってしまうと、外でトイレを使うときに、ついつい流し忘れながわするようになってしまいうから。そして近頃は、流し残しに出会うことも多くなつたからだそうです。

つまり、「当たり前」の中で生活をしていると、自分がされて一番嫌いやなことを他者にする人間になるということなのでしょう。そして、嫌なことをしていることに、気づくこともない人間に育つということでもあるのでしょうか。

波北彰真はきたしょうしんさんという方は、

「よろこびの真ん中にいても

よろこびに気づく心の眼めを持たなければ、

よろこびに出あえないままに終わるでしょう」

『人生のほほえみ 中学生はがき通信』波北彰真

と言われています。いくらよろこびに囲かこまれ、幸せに囲かこまれ

ていても、「当たり前」と受け止めているなら、うれしさも感動もないのです。そして、その心の眼めを育てて下さるのが、阿弥陀様のみ教えであると教えられます。

「有難ありがとう」とは、有あることが難むずかしいと書きます。今、ここに有ることが、どれだけの営いとなみと歴史れきしの上で成り立っているかということに気づいた時に、初めて「有ることが難しいことむずかしいことが、今ここに有る。有り難いなあ」と感動と感謝が生まれるのではないのでしょうか。

それは、これまで私を支え、生かし、育てて下さった世界との出遇であいであり、同時に、その世界に気づきもせず、足蹴あしげにしてきた自らの姿に目覚めざめることでもあるのです。■





## 5月の言葉

「誤発進抑制装置」というものを、ご存知でしょうか。

昔は、自動車といえばミッション車がほとんどでしたから、クラッチを踏み、ギアを入れ替えて、アクセルを踏むという手順を踏まなくてはなりませんでした。しかし現在は、オートマチック車がほとんどですから、自動でギアチェンジされ、アクセルを踏めば走るようになっていきます。

とても便利ではありますが、ブレーキを踏んだつもりで、誤ってアクセルを踏んでしまうと大変です。店に突っ込んだり、時には歩道を歩く人に突っ込んだりと、大きな事故が相次いで発生しています。そんな誤発進を防ぐために、障害物をセンサーで感知し、衝突を防ぐ機能が、各メーカーで開発されている。それが「誤発進抑制装置」です。

アクセルを踏むだけで、車は走る。科学技術の進歩による

て簡単で便利になりました。小さな労力で、大きな結果を得ることができるようになりました。ところが、肝心の人間が追い付いていないために、小さな間違いが、大きな事故につながるようになってしまいました。その対策のために、「抑制装置」なるものが作られています。

この事実は、私たちにとても大切なことを突きつけているのではないのでしょうか。人間にとって便利なアクセルよりも、それを抑制するブレーキの方がより大切なのだということを。

近頃は、いろんな意見を主張できる時代になりました。同時に、軽い気持ちで言った一言が、大きな影響力を持つ時代になりました。様々な意見が主張でき、それを尊重する社会は、風通しが良く、生きやすいはず。しかし現実はどうと、社会全体が委縮し、何かに脅え、生きづらくなっているように感じます。なぜなのでしょう。

先日、『人志松本のすべらない話』というテレビ番組で、お笑い芸人の千原ジュニアさんが、はとバスツアーに参加し

た話をしておられました。

東京・新宿しんじゅくから出発し、都外とがいのお寺めぐを巡るコースです。バスガイドさんが、まず最初に注意事項ちゅういじことうを確認します。

「朝早い出発ですから、お休みになられるお客さまもごさいますので、会話の方はなるべく小さな声でお願いします。

そして…」

「リクライニングシートを倒さされる際には、後ろのお客様に一声かけてからお願ねがいします。そして…」

「テーブルは滑すべりやすい素材ですので、携け帯電話でんわなど置かれますとカーブで落ちる恐れがあります。お気をつけ下さい。そして…」

「テーブルには穴が開いておりますが、これは紙コップ専用せんようですので、ペットボトルは入りません。そして…」

「どうしてもペットボトルを置かれない時には、逆さかさにされれば入ります。しかし、必ずキャップのフタをしっかりお締めしめください。そして…」

「そして…」

「そして…」



「そして…」

気がつけば、すでに都内を過ぎ、隣となりの埼玉県に入っていたというのです。

それだけ様々さまざまな意見いけんを汲くみ取とらなくてはならない時代なのです。小さな事柄ことばであっても、おかしいと思っても、意見があれば対応たいおうしなくてはならない。それが、軽い気持ちこころや自分勝手じぶんかってな思おもいの一言ひとことだとしても。

いろんな意見を主張しやうできる時代になったということは、同時に、その一言ひとことが大きな影響えいきやう力りきを持つようになったことです。ところが、影響えいきやう力りきを自覚じかくしないままに、軽い言葉ことばが飛び交かってはいないでしょうか。そんな言葉ことばが、世の中よを委縮いしゆくさせ、脅おびえさせ、だからこそ生きづらい時代にしてしまったのではないのでしょうか。

ほんの小さな踏ふみ間違まちがいが大きな事故じこにつながるように、ほんの軽い一言ひとことが大きな悪影響あくえいきやうを及およぼしていく。私たちは、こんな時代に生なきているのです。生きづらはずです。

親鸞しんらん聖人しょうにんが「日本のお釈迦しやくか様さま」として尊敬そんけいされ、道し



るべとされた聖徳太子は、

「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるに

あらず。共にこれ凡夫ならくのみ」(『憲法十七条』)

と記されています。私がいつも正しいわけではなく、相手がい  
つも間違っているわけではない。完璧な人間など、どこにもい  
ない。みな共に、ただの人間でしかないのだと。

考えてみれば、当たり前のことです。当たり前だとすると、もう  
少し自らを振り返ったり、相手に対して寛容になっても良さそ  
うなものです。ところが、私自身のことを考えても、なかなか  
そうはいきません。一時の感情で、怒り、相手を裁き、切り  
捨てています。約一四〇〇年前に書かれたごく当たり前のこと  
が、未だにできていない。人間の本质は、いつの時代になつて  
も変わらないのでしよう。にも関わらず、周囲の環境はどん  
どん発達し、アクセルを踏むだけで車が走るように、軽い一言  
が大きな悪影響を与えてしまうようになってしまいました。

「共に凡夫」であるからこそ、ブレーキが大切であるはずなの  
に。聖徳太子は、

「それ三宝に帰りまつらずは、なにをもつてか枉れるを

直さん」(『憲法十七条』)

とも言われています。三宝とは、仏・法・僧(僧伽)・教えを  
よりどころに生きる人々の集まり)のことです。仏様を仰  
ぎ、教えを聞き、その教えに生きる仲間を通して、自分を見  
つめることがなかったら、我執にとらわれたよこしまな心は  
直すことはできないのだと。

仏法をよりどころにしながら、できるだけ手順を追って、  
丁寧に言葉を紡いでいく。そんな営みを、私はしていこうと  
思います。気をつけても間違う私なのです。せめて自覚的に  
ならなくては、人生までも誤発達してしまいそうで。私の  
軽々しい発言を抑える「抑制装置」など、  
ないのですから。

約一四〇〇年前の人の言葉が、現代  
社会に生きる私に、自らの生き方を見  
つめ直すことの大切さを、突きつけて  
くださっています。 ■



## 第36回 児童念仏奉仕団のご案内

大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非、ご参加のお呼びかけをお願いします。



◆期 日 2018（平成30）年7月30日（月）～8月1日（水）二泊三日

本願寺参拝 大阪ユニバーサルスタジオジャパン

◆対 象 小学三年生～中学一年生

◆参加費 41,000円（中学生は、43,000円）

◆申込み 6月30日までに極楽寺へ

※ 詳細は、お寺へおたずね下さい。



住職からの  
お願いです

引き続き、今回も…

夜の法座に、お参りください



□春の彼岸会法要で、極楽寺にいられた映画監督・森達也さんが、NHKの『放送記念日特集 フェイクニュースとどう向き合うか』という番組に出演されていました。フェイクニュースとは嘘のニュース、つまりデマです。インターネット等の普及で、取材も

裏付けもない情報が影響力を持ち、政治的・経済的だけではなく、健康被害などの身近な生活においても、様々な事件を引き起こしています。□さて番組では、ネット上にはびこるフェイクニュースの出所を探すという取材を行いました。調べてみると、多くのニュースは何故か東欧のマケドニアの小さな村から発信されていたのです。□記事には広告が掲載されており、見られる度に収入が増えます。経済的に厳しい状況にあるマケドニアでは、収入を得るために嘘のニュースの作り方を教える先生がいて、家族でどんな嘘がいいのかを相談し合うのだとか。その光景には、正直ゾッとしました。□「アメリカ人はバカだ。こんなニュースにすぐに騙されて」と彼らは語ります。でも、それは私たちも同じです。ワイドショーに煽られ、デマに振り回されてはいませんか。落ち着いて、胸に手を当てて、考えてみる。少し立ち止まって、想像する。それだけで、世界の見え方は、まったく変わってくる。そう森達也さんは、教えてくださいました。□同時にこの番組で、経済中心の時代の歪みも知らされた気がします。収入を得るために、人を騙すニュースを家族で相談する。そこに罪悪感の欠片もないのは、今や世界中で、みんながやっていることだから…なのかもしれません。やはり、少し立ち止まって、考える必要があります。（住職）